

# 地域医療の存続を最優先に

山武郡内での（仮称）九十九里地域医療センター計画が2月に断念されたことは、新聞報道等でご存知のことと思いますが、皆様には、ご心配をおかけしたと思います。行政として計画見直しの合意が得られなかった経緯をご報告します。

一貫して私が主張してきたことは、何点かにまとめることができると思っています。

- 1 地域医療を進展させるためには、郡内の公立病院を統合すべきだが、医療情勢が大きく変わったことで計画の見直しが必要である

- 2 経営が成り立つセンター計画であるべき

- 3 山武市民にも受け入れられる計画であるべき

センター計画は、これらの条件を満たしていないことから「建設あり

きではなく見直すべきである」と主張してきましたが、「建設だけは急がなければならぬ」として、会議の都度一定の合意が積み重ねられてきました。

この計画の経緯につきまして、インターネットアクセスの可能な方は「山武広域公式ホームページ」を開き、医療センター整備室、関係市町会議と進んでください。平成18年6月から平成20年2月15日までの会議録が掲載されています。ぜひご覧ください。

※ホームページをご覧になれない場合は、健康支援課保健予防係（☎0479(80)83383）へご連絡ください。

## 二つの出発点からのスタート

平成13年当時、黒字経営であった成東病院は、郡内の公立病院を統合し、救命救急センターを併設して、地域医療の進展を図る計画を呼びか

けました。同じ時期、千葉県に県立病院の大統合案があり、東金病院の建替え計画がありました。

この二つの動きが絡み合って、「地域医療の進展」と「病院の建替え（建設を急ぐ）」という同じよう異なる姿を追い求めてきたといえます。

## 平成16年に山武地域医療センター構想

この計画は、平成16年に山武地域医療センター構想として策定され、検討されてきましたが、その後研修医制度により全国各地で病院の勤務医不足が深刻となりました。この地域でも、千葉県の保健医療計画で救急基幹病院として位置づけられている県立東金病院の内科が縮小され、その影響から成東病院の内科医の負担が一気に増して崩壊に至り、大きな打撃を被る結果となりました。そうした状況の中で、山武市民の声は、圧倒的に「成東病院を残して

ほしい」というものでした。そのため、センター構想を少し遅らせても成東病院を回復することを優先に考えました。医療センターに対する私の考えは、地域の皆様がどこからでも利用しやすいように「山武郡の中央に統合するべき」というものでしたが、山武地域医療センターというには、候補地が南に寄りすぎているため、解決策として次の3通りが考えられました。

- 1 場所を郡真ん中に見直し、病院統合の理解を求める。（山武地域医療センター）
- 2 候補地につくるならば、広域の医療センターとする。（九十九里地域医療センター）
- 3 候補地にセンター病院をつくり、成東病院、大網病院を残す。（サテライト方式）

しかし、いずれの解決策もセンター病院を建設することに変わりはなく、多額の建設資金と運営費がかかります。更に、